

担当所属		担当者氏名	連絡先(内線)
森林研究所	森林環境部	古川 邦明	

本日、研究成果発表会および講演会を開催したので、その結果をお知らせします。
(写真3枚添付)

平成18年度岐阜県森林研究所成果発表会及び講演会

- ・期 日 :平成18年7月21日(金) 13:00~16:00
- ・場 所 :テクノプラザ 4F プラザホール 各務原市須衛町 4-179-1
- ・主 催 :岐阜県森林研究所
- ・参加者 110名 内訳 国有林関係 6名 森林組合関係 14名 企業 10名
県関係 55名 一般県民 12名 市町村 13名

研究成果発表会 職員4名による最新技術開発、研究内容を紹介しました。

1) 間伐材搬出用モノレールの開発(森林環境部長 古川邦明)

木材(間伐材)を効率的に運べるモノレールを開発しました。木材を引き寄せる機械、積み込む装置がセットになっています。無人で目的地に到着し、材を運搬し林外まで自動で木材を降ろし、元の場所へ戻ることができます。

2) 『冠雪害危険度図』- 雪に負けない山づくりのために(主任専門研究員 横井秀一)

湿った雪によるスギの木の幹や枝が折れたり、倒れる被害を未然に防ぐため、県内の危険度を判定しました。1Kmごとの地理情報とアメダスの気象データを組み合わせて判定しました。過去の被害実績とも概ね合致し、間伐を推進するなど、今後の対応に役立ちます。

3) 森林浴によるリラックス効果(専門研究員 井川原弘一)

森林浴のリラックス効果を心理的および生理的の両面で計測しました。気分状態を測定する方法(主観的なアンケート手法)で心理面を計測しました。ストレスホルモンの分泌量で生理面を計測しました。その結果、森林浴には気分転換をもたらすことが確認できました。一人の散策よりも案内人がいたほうが、より効果があることが分かりました。

4) 岐阜県産クリタケの栽培技術(専門研究員 井戸好美)

岐阜県独自のキノコ生産をめざし、野生のクリタケから優良な菌を選抜しました。空調施設を使った栽培では、同様の栽培をするヒラタケ等に比べ栽培期間が長くかかることが分かりました。このため、より簡易な施設での栽培法として、菌床シイタケ栽培と同様の栽培法を考案しました。

講演会 (15:00~16:00) 演題 「王子製紙の森林造成」

講師 王子製紙株式会社 原材料本部 植林部 部長 本橋 利文 氏

日本最大の森林所有者である王子製紙の森林管理、地球環境への配慮、温暖化対策であるCDM植林などについて講演しました。

講師のことば

・日本の紙・板紙の生産量は世界の約9%を占めるが、木材原料の生産の場となる森林面積は世界の0.6%と極めて少なく、日本の製紙産業は脆弱な原料基盤の上に成立している

・古紙の回収・利用は大幅に進み、現在、古紙は製紙原料の6割を占めるが、今後増大が予測される紙・板紙需要への対応として、古紙の回収・利用の一層の拡大と、更なる植林による木材資源造成が不可欠である。

・京都議定書では、先進国が途上国に資金援助や技術移転して共同で植林事業を行い、先進国がその森林の二酸化炭素吸収量（クレジット）の全部または一部を取得し自国の削減量に充当できる仕組み、「CDM 植林」を認めた。

しかし、CDM 植林で獲得するクレジットは、期限付きクレジットとなり、クレジット発生期間終了後の補填義務、追加性の検証等、事業者にとって厳しく、認定申請も、資格審査等が煩雑なことから、企業や団体が取り組めるか危惧している。

会場からの主な質問

成果発表会

- ・森林浴のリラックス効果は、針葉樹と広葉樹とでどちらが高いのか？
- ・雪害を受けない間伐のやり方はどうすれば良いか？

講演会

- ・紙の原料となるユーカリは10年で伐採を繰り返すが、森林の地力が衰えないか？



